

平成9年4月30日現在

# 南須田

MINAMISUDA

世帯数 37戸  
人口 149人

## 南須田発「南の玄関・やわらぎの郷1997」

村の北側によく知られる境界石があり、石碑には「従是南摠見寺領」とあります。もともと南須田は摠見寺の領地であったので、蒲生郡に属していましたが、明治15年(1882)の行政区画統合の際、神崎郡に編入、現在は能登川町の南玄関に位置しています。また、村内中央には超光寺の本堂があり、室町末期を代表する建築物として県指定文化財の表門があります。

東の方角、観音寺山麓にある五十餘州神社は通称「ごんじょうじさん」と呼ばれ観音寺城佐々木六角の歴史にもつながりをもっています。とくに春祭りの様子は興味深いものがあります。宵宮には社に至る参道を神輿、大太鼓、小太鼓、鐘が、松明をかざす行列の中を祭ばやしものにぎやかに練り上がります。その様は実に勇壮で往時の絵巻を想起させます。

村の南の入口には法華塔が建ち、中には大乗妙典を一字一石に刻んでまつてあります。毎月16日には村人が交替で法要をなし、塔の前には年中香華がたえ

ません。南の山麓一帯は昔、須田の梅林で有名でしたが、いまは町の手で「やわらぎの郷公園」として整備され、能登川町民安らぎのコーナーとなっています。

以上、小さいながら伝統的に村民の神仏を崇め敬う心は篤く、老若いまでも人情に厚く礼をわきまえる良習を遺しています。人の心同様、時代の荒波に抗して後世に自然の良き環境を残し伝えることができるかどうかは、これからの人々の大きな努力にかかっていると言えます。先祖の努力と願いを将来につなぎたいと思います。



五十餘州神社



超光寺と往時の機関車の勇姿



春の祭りばやし

平成9年4月30日現在

# 伊庭 IBA

世帯数 313戸  
人口 1,323人

伊庭は、能登川町の南西部に位置しています。昔は1村1集落で行政を行ってききましたが、昭和17年(1942)能登川町の誕生に伴い、その姿も少しずつ変わりつつあります。

農業を主とした静かな田舎の集落でしたが、近年とみに進められている都市化の影響を受け、住宅開発が進み、田畑も少なくなりつつあります。昭和63年より農村総合整備モデル事業として字内の河川の改修が行われました。ひと昔前は田舟が交通の主役でしたが、現在不用の河川は道路に改良されて、車社会に影響され道路幅が広くなり、大変便利になりました。

伊庭を語る中に祭りがあります。伊庭祭りは「坂下し祭」と言って近隣に知られた奇祭です。3基の神輿がつぎつぎに険しい山腹の道を下って行きます。道と言っても道らしい道はなく、ただ歩くだけでも石ころに足をすくわれて何度も転びかける道です。途中には巨石が露出した断崖状の難所が何箇所もひかえており、「宮出し」「衣掛の岩」「吹き上げ岩」「屏風岩」「本堂抜

け」「瓜溝」「台懸」「二本松」「長番場」「鳥居前」などの個所を若衆達は一つ一つの難所に挑戦し、互いに協力し合いながら慎重に、しかも大胆に神輿を引き下ろしていきます。一瞬の油断も許されないのです。周りで声援を送る見物人も、しばしば息を呑むようなスリルに満ちた光景が展開します。この坂下し祭は昭和57年3月31日に滋賀県教育委員会により無形民俗文化財として選択を受け、今日に至っています。また大浜神社境内の仁王堂は鎌倉時代前期の建立と伝えられており、町内でも数少ない貴重な建造物です。

身近な環境づくりとしては、平成3年(1991)より字内の川に鯉を放流しました。鯉の泳ぐ姿は優雅であり、雄々しく見えます。



伊庭の坂下し



県指定文化財・大浜神社の仁王堂



集落内の川を泳ぐ鯉